

# 「信任を失った経営者は潔くその職を去れ」

最も好きなのは、  
「知るより好く、好くより楽しむ」  
だとか。

「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一。「論語と算盤」など栄一が残した言葉のうち、現代にも通じるメッセージをまとめた本「巨人・渋沢栄一の『富を築く100の教え』」が出版された。著者は、投資コンサルティング会社を経営する渋

澤健氏。栄一の孫の孫、5代目子孫だ。渋澤氏が読み解く栄一のメッセージとは、本人を直撃した。



「100年も前の言葉ながきっかけだった。のに現在の日本でもその 渋澤氏が選んだ100

まませえる。驚きました」のキーワードは、教育、外交など多岐にわたる。持ったのは、実はほんのが、「会社」という観点

「今は『コーポレート・ガバナンス』っていわれあつて、会って話してみると『この人、めちゃくちゃ人生を楽しんでいるな』と思うんですよ。楽しいから行動を起し、成功して、実績になる。その繰り返しでいい循環が

## 5代目子孫が伝える

# 渋沢栄一100の教え

は知っていたが、「先祖の偉い人」程度でしかなかつた。

が、外資系金融機関を経

ではこんな言葉がある。にあつたんです」

生まれる」

て独立、起業した時に「500社もの会社を立ち上げたというから、何の参考になるかも」と栄一の言葉を読み始めたの

は、かき離れた考え方のように見える「金儲け」と「倫理観」は両立可能とも説く。栄一が永眠したのは91歳。「自らこの言葉を実践した。さぞ、いい人生だったと思いますよ」と、渋澤氏は笑った。